

平成19年度分 新米子市総合計画  
(米子いきいきプラン)  
数値目標 進捗状況報告書

平成20年10月

企画部総合政策課

## 目 次

1	調査の目的	・ ・ ・ ・ ・	1
2	調査対象	・ ・ ・ ・ ・	1
3	目標達成度	・ ・ ・ ・ ・	2
4	調査結果	・ ・ ・ ・ ・	3
5	政策分野別の進捗状況	・ ・ ・ ・ ・	4
(1)	第1章 子育てを応援し、お年寄りが元気な米子	・ ・ ・ ・ ・	4
(2)	第2章 ゆとりある心豊かな米子	・ ・ ・ ・ ・	6
(3)	第3章 活力みなぎる米子	・ ・ ・ ・ ・	8
(4)	第4章 みんなのための市役所	・ ・ ・ ・ ・	9
6	数値目標別進捗状況	・ ・ ・ ・ ・	10
	(19年度の取り組み・成果、目標実現の方策等)		

## 1 調査の目的

平成 18 年度にスタートした「新米子市総合計画（米子いきいきプラン）」の数値目標の進捗状況を把握し、今後の計画推進に役立てるため、平成 19 年度分の進捗状況調査を実施した。

## 2 調査対象

新米子市総合計画基本計画の数値目標 71 項目を対象とした。

なお、数値目標のうち、「・・・している市民の割合」の 10 項目については、平成 20 年 5 月に実施した市民意識調査の結果とした。

また、制度改正、社会経済情勢の変化、あるいは施策、事業を進めていく上でより適切な数値目標とする等の理由により見直した結果、新設又は廃止した各 3 項目及び目標値等を見直した 5 項目の数値目標について変更した。

### 【進捗状況調査対象数】

区 分	数値目標の総数
第 1 章 子育てを応援し、お年寄りが元気な米子	16
第 2 章 ゆとりある心豊かな米子	29
第 3 章 活力みなぎる米子	22
第 4 章 みんなのための市役所	4
数値目標数	71

### 【新設した数値目標】

指 標 名	17 年度 現状値	18 年度 実績値	19 年度 実績値	22 年度 目標値	備 考
認知症予防教室参加者数		480 人	450 人	900 人	
遊休農地解消面積		2ha	8ha	23ha	
日野川における天然稚鮎 の遡上数	5.45 万尾	40 万尾	60 万尾	100 万尾	

### 【廃止とした数値目標】

指 標 名	17 年度 現状値	22 年度 目標値	備 考
認知症高齢者見守り事業利用時間数	533 時間	1,000 時間	
遊休農地面積	441ha	406ha	
放流するアユの稚魚の数	183 万尾	150 万尾	

## 【目標値等の見直しを行ったもの】

変更点 斜体・下線 ( )内は変更前

指 標 名	17年度 現状値	18年度 実績値	19年度 実績値	22年度 目標値	備 考
基本健康診査受診率	43.1%	44.8%	43.3%	<u>55.0%</u> (50.0%)	米子市国民健康保険特定検診実施計画にあわせ目標値を変更
通所型介護予防事業利用者数	<u>228人</u> (2,984人)	68人	78人	<u>510人</u> (6,480人)	介護保険制度改正により現状値・目標値を変更
担い手の農地利用集積面積が地域の農用地に占める面積の割合	6.1%	7.7%	13.2%	<u>16.7%</u> (21.1%)	認定農業者の実績及び新たな担い手の目標値から目標値を変更
企業誘致件数	<u>12企業</u> (7企業)	12企業	15企業	<u>17企業</u> (12企業)	流通業務団地への進出企業も含め現状値・目標値を変更
皆生温泉宿泊者数(入湯税対象客数)	47.8万人	44.7万人	44.7万人	<u>50万人</u> (60万人)	客室総数の減少及び客室稼働率の見直しによる目標値を変更

## 3 目標達成度

目標達成度は、その状況から、つぎの「A～D」の4つの区分に分類した。

A = 目標値を達成している

B = 概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである

C = 進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある

D = 基準値(17年度現状値)を下回っている

#### 4 調査結果

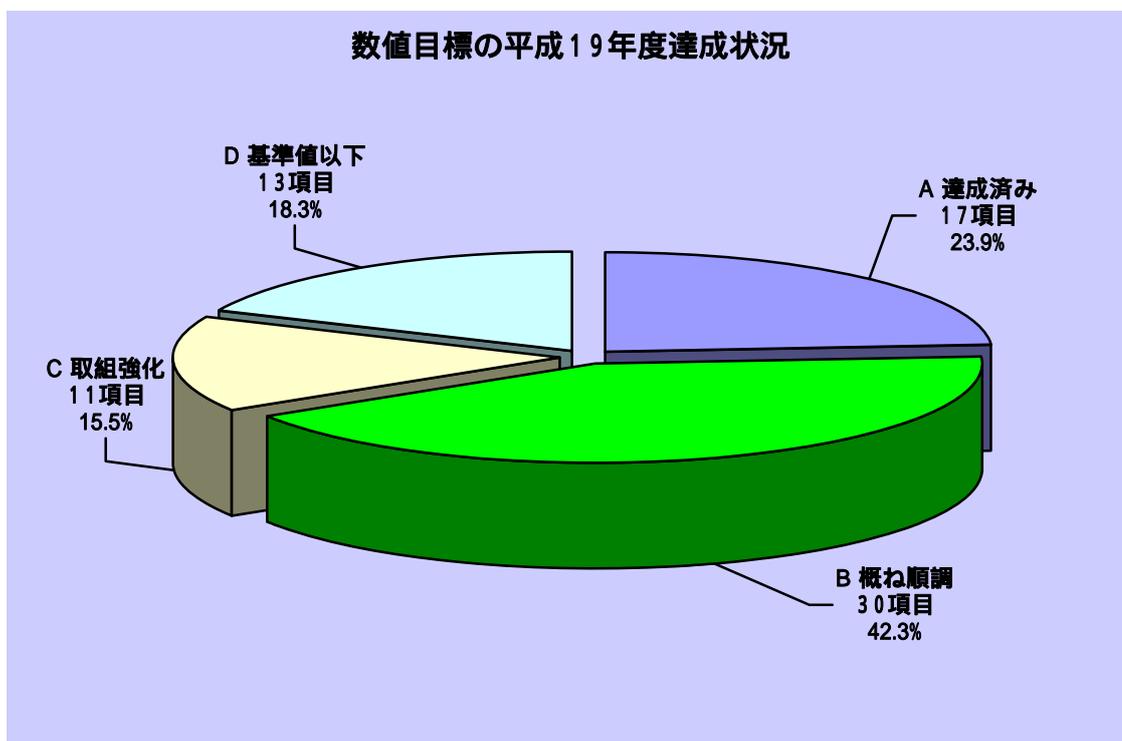
調査対象の数値目標数 71 項目のうち、既に目標値に達成したもの 17 項目 (23.9%)、概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みのもの 30 項目 (42.2%) で、合わせると 47 項目 (66.2%) となり、約 3 分の 2 の項目については順調に進捗している。

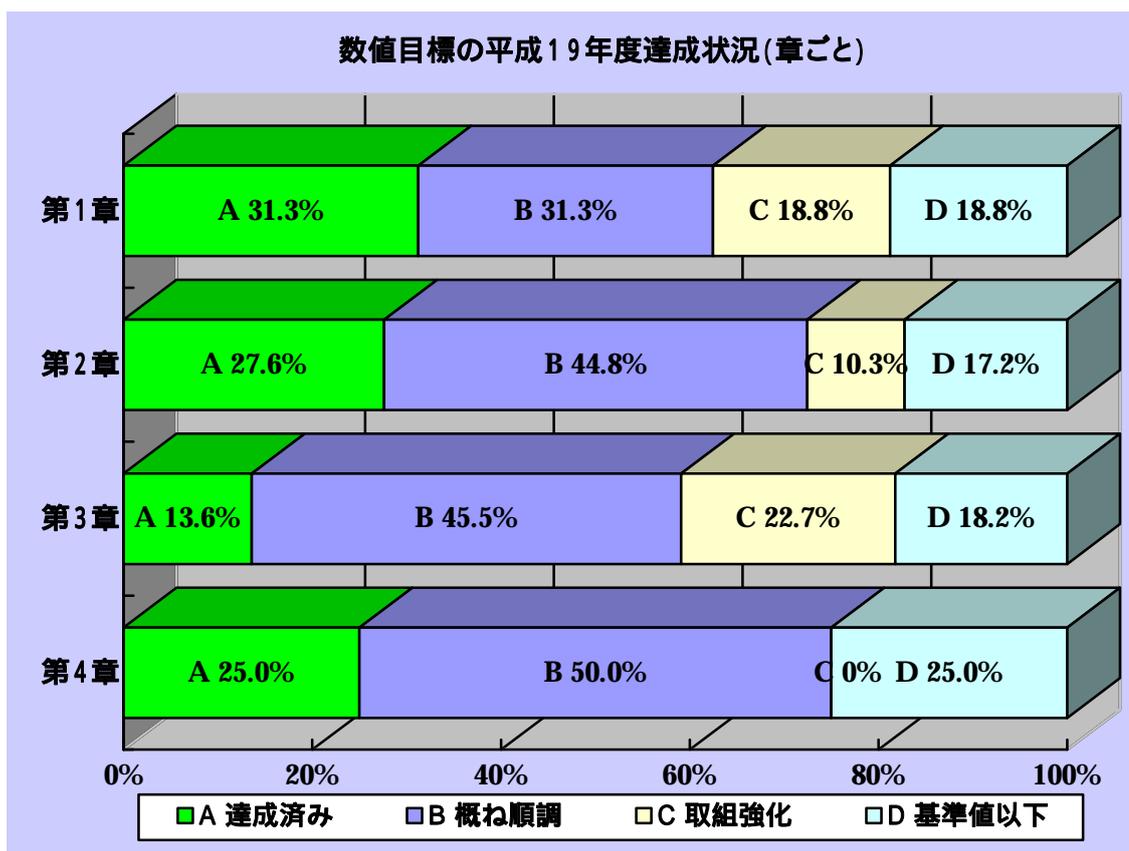
ただし、基準値 (平成 17 年度の数値) よりも下回っているものが 13 項目 (18.3%)、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要があるものが 11 項目 (15.5%) あるので、目標実現に向けて更なる取り組みの強化・充実を図る必要がある。

また、昨年度と比較すると調査対象数が増えたため、市民の意識など基準値以下の数値目標も増えてはいるが、達成済みの項目も 8 項目増加しており、全体としては順調に推移している。

対象目標数	A 達成済み	B 概ね順調	C 取組強化	D 基準値以下
第 1 章 16	5 (31.3%)	5 (31.3%)	3 (18.8%)	3 (18.8%)
第 2 章 29	8 (27.6%)	13 (44.8%)	3 (10.3%)	5 (17.2%)
第 3 章 22	3 (13.6%)	10 (45.5%)	5 (22.7%)	4 (18.2%)
第 4 章 4	1 (25.0%)	2 (50.0%)	0 (0.0%)	1 (25.0%)
71	17 (23.9%)	30 (42.3%)	11 (15.5%)	13 (18.3%)

(注) 表示単位未満を四捨五入してあるので章ごとの割合の合計が 100%にならない場合があります。





(注) 表示単位未満を四捨五入してあるので章ごとの割合の合計が100%にならない場合があります。

#### 年度別進捗状況

年 度	調査対象の数値目標数	A 達成済み	B 概ね順調	C 取組強化	D 基準値以下
平成19年度	71 (100%)	17 (23.9%)	30 (42.3%)	11 (15.5%)	13 (18.3%)
平成18年度	58 (100%)	9 (15.5%)	31 (53.5%)	9 (15.5%)	9 (15.5%)

### 5 政策分野別の進捗状況

#### (1) 第1章 子育てを応援し、お年寄りが元気な米子

調査対象の数値目標数16項目のうち、「病気予防、健康維持のための取り組みをしている市民の割合」、「介護保険利用者における居宅サービス利用率」、「65歳以上の高齢者のうち、介護保険要介護者にあたらない人の割合」、「認知症高齢者出現率」、「介護保険要介護者認定率」の5項目については目標を達成しているほか、「なかよし学級実施学級数」、「1歳6ヶ月児健康診査受診率」など5項目について概ね順調であり、62.5パーセントが達成又は順調に進捗している。

しかし、「保育所入所待機児童数」など3項目は基準値を下回っているほか、「通所型介護予防事業利用者数」など3項目で取り組みを強化する必要がある。

この分野では、保育所入所待機児童の解消のため、保育園の定員増の措置を行ったが、依然として待機児童が減少していない状況も見受けられるものの、健康に対する市民意識の高まりや高齢者の介護及び認知症予防対策、子育て環境について取り組みの成果が挙がっている。

平成19年度 数値目標進捗状況結果一覧

第1章 子育てを応援し、お年寄りが元気な米子						
指 標 名	現状値	18年度	19年度	目標値	目標 達成度	比較
	17年度	実績値	実績値	22年度		
「病気予防、健康維持のための日頃の取り組み」をしている市民の割合	65.3%	-	70.2%	70.0%	A	↗
1歳6ヶ月児健康診査受診率	94.9%	97.3%	96.8%	97.0%	B	↘
基本健康診査受診率	43.1%	44.8%	43.3%	55.0%	B	↘
結核予防接種（BCG）累積接種率	97.2%	98.1%	97.5%	98.0%	B	↘
通所型介護予防事業利用者数	228人	68人	78人	510人	D	↘
介護保険利用者における居宅サービス利用率	77.2%	77.4%	78.2%	77.6%	A	↗
65歳以上の高齢者のうち、介護保険要介護者にあたらない人の割合	81.0%	80.8%	81.3%	80.6%	A	↗
認知症予防教室参加者数	-	480人	450人	900人	C	↘
認知症高齢者出現率	15.0%	14.0%	13.6%	15.0%	A	↗
「子育て環境整備」に関する市民の「不満足」「やや不満足」の割合	不満足 12.7% やや不満足 22.6%	-	不満足 11.5% やや不満足 8.5%	不満足 6.4%以下 やや不満足 11.3%以下	C	↗
保育所入所待機児童数	31人	36人	44人	0人	D	↘
なかよし学級実施学級数	19箇所	20箇所	21箇所	23箇所	B	↗
障がい者が暮らしやすく、社会参加できる環境が整っていると感じる市民の割合	19.0%	-	17.8%	25.0%	D	↘
福祉ボランティア団体に登録している市民の割合	2.6%	2.8%	2.7%	5.0%	C	↘
国民健康保険料の徴収率(現年分)	88.41%	89.31%	89.36%	92.00%	B	↗
介護保険要介護者認定率	19.0%	19.2%	18.7%	19.4%	A	↗

## (2) 第2章 ゆとりある心豊かな米子

調査対象の数値目標数 29 項目のうち、「児童 1 人当たりの年間図書貸し出し数」、「学校給食に置ける県内産食材の使用割合」、「少年の初発型非行者数」など 8 項目については、目標を達成しているほか、「中高生が子ども会のボランティア活動に参加している人数」、「伯耆古代の丘整備事業の進捗率」や「汚水処理人口普及率」、「水洗化率」など 13 項目で概ね順調に進捗しており、合わせて 21 項目（72.4%）となって、他の分野に比べ目標達成度は高い。

特に、ごみの減量化については、平成 19 年 4 月から家庭ごみの有料化及び事業所ごみの収集廃止を実施したことにより、昨年度と比較して 20 ポイント上昇し減量化が図られている。

引き続き、市民啓発や生ごみ処理機への支援などごみの減量化、再資源化の取り組みを推進する必要がある。

また、公共下水道や農業集落排水など汚水処理人口普及率及び水洗化率の向上により、水質浄化対策に積極的に取り組んでいる。

しかし、「自治会に加入している割合」、「芸術文化鑑賞機会の提供に満足している市民の割合」、「人権教育地域懇談会の参加者数」など 5 項目は基準値を下回っており、また、「市民 1 人当たりの公園面積」など事業が停滞している項目もあり、市民参画、市民との協働の取り組みを強化・充実しながら、目標達成に向けて努力する必要がある。

平成19年度 数値目標進捗状況結果一覧

第2章 ゆとりある心豊かな米子						
指標名	現状値 17年度	18年度 実績値	19年度 実績値	目標値 22年度	目標 達成度	比較
人権教育地域懇談会の参加者数	2,741人	2,624人	2,317人	3,000人	D	↘
男女が平等に生活していく社会づくりが進んでいると思う割合	49.5%	-	50.6%	60.0%	B	↗
審議会等委員に占める女性の割合	31.4%	31.8%	29.6%	40.0%	D	↘
児童 1 人当たりの年間図書貸し出し数	40冊	51.1冊	51.1冊	48冊	A	→
校内 LAN 整備率	54.4%	100.0%	100.0%	100.0%	A	→
学校給食における県内産食材の使用割合	44.8%	51.5%	53.6%	50.0%	A	↗
生涯学習の機会の提供に満足している市民の割合	18.2%	-	17.6%	20.0%	D	↘
中高生が子ども会のボランティア活動に参加している人数	200人	267人	317人	350人	B	↗
米子市に住所を有する少年の万引き、自転車盗、置き引きなどの初発型非行者数	179人	145人	114人	120人	A	↗

指 標 名	現状値 17年度	18年度 実績値	19年度 実績値	目標値 22年度	目標 達成度	比較
芸術文化鑑賞機会の提供に満足している市民の割合	16.8%	-	16.3%	20.0%	D	↘
山陰歴史館・福市考古資料館・淀江歴史民俗資料館の年間入館者数	9,699人	13,155人	12,176人	30,000人	C	↘
「伯耆古代の丘整備事業」の進捗率	9.2%	21.2%	27.6%	77.0%	B	↗
市民が週1回以上、スポーツ活動を行っている割合	21.4%	-	28.7%	30.0%	B	↗
「白浜住宅建て替え事業」の進捗率	0%	0%	44%	100%	B	↗
「五千石住宅建て替え事業」の進捗率	0%	0%	0%	28%	C	→
市民1人当たりの公園面積	10.39㎡	10.39㎡	10.39㎡	10.43㎡	C	→
準用河川の改修済み延長 (準用河川区間延長L=17.41km)	8.03km	8.08km	8.13km	8.28km	B	↗
汚水処理人口普及率	68.0%	73.9%	76.0%	85.1%	B	↗
水洗化率	82.8%	82.8%	85.4%	85.7%	B	↗
米子市の景観を魅力的と感じる市民の割合	40.9%	-	44.8%	43.0%	A	↗
平成12年度を基準としたごみの削減率	5% (H16)	-4%	16%	8%	A	↗
ごみのリサイクル率	16.1%	16.6%	17.9%	21.0%以上	B	↗
消防団員数	498人	509人	509人	530人	B	→
自主防災組織の結成率	27%	29%	31%	37%	B	↗
公共建築物(昭和56年以前に建築)の耐震調査の割合	70%	73%	74%	86%	B	↗
交通事故発生件数	1,043件	1,010件	917件	985件	A	↗
自治会に加入している割合	73.3%	71.8%	70.5%	74.1%	D	↘
生活排水対策重点地域「加茂川・旧加茂川流域」、 「大沢川流域」における施設整備によるBOD汚濁負 荷量	「加茂川・ 旧加茂川流 域」 466.9 kg/日 「大沢川流 域」 560 kg/日	-	461.3 kg/日 523.1 kg/日	439.6 kg/日 532.1 kg/日	B	↗
市行造林地内で間伐・枝打ち等の作業を実施する面積	32.53ha	33.8ha	46.67ha	35.00ha	A	↗

(3) 第3章 活力みなぎる米子

調査対象の数値目標数 22 項目のうち、「農作物を購入する際に地元産を優先する市民の割合」、「地元企業の産学官連携事業数」及び「米子市のケーブルテレビ網カバー率」の 3 項目は、目標を達成しており、「中心市街地商店街空き店舗への出店数」、「米子流通業務団地への進出率」、「米子空港搭乗者数」など 10 項目については、概ね順調に進捗している。

地産地消に対する市民意識の高まり、流通業務団地への企業進出、産・学・官の連携などの取り組みが進んでいる。

しかし、「コンベンション開催件数」、「コンベンション参加延べ宿泊客数」、「国際交流に参加した市民の割合」及び「皆生温泉宿泊者数」の 4 項目で基準値を下まわり、「遊休農地解消面積」、「工業団地内への立地企業数」、「米子市の地籍調査進捗率」など、取り組みの強化が必要なものが 5 項目ある。

この分野は、社会経済情勢等の外因的要素に影響される数値目標が多数あるものの、市民、関係機関との協力・連携を得ながら、目標達成に向けて一層まい進する必要がある。

平成19年度 数値目標進捗状況結果一覧

第3章 活力みなぎる米子						
指 標 名	現状値 17年度	18年度 実績値	19年度 実績値	目標値 22年度	目標 達成度	比較
担い手の農地利用集積面積が地域の農用地に占める面積の割合	6.1%	7.7%	13.2%	16.7%	B	↗
遊休農地解消面積	-	2ha	8ha	23ha	C	↗
担い手の数	38 経営体	46 経営体	86 経営体	101 経営体	B	↗
農作物を購入する際に地元産を優先する市民の割合	65.0%	-	74.60%	70.0%	A	↗
美保湾沿岸に設置した魚礁の設置箇所数	19箇所	19箇所	20箇所	21箇所	B	↗
皆生漁港の北防波堤の延長	151m	181m	181m	211m	B	→
日野川における天然稚鮎の遡上数	5.45万尾	40万尾	60万尾	100万尾	B	↗
中心市街地商店街空き店舗への出店数	20店舗	23店舗	40店舗	45店舗	B	↗
米子流通業務団地への進出率	43.5%	61.8%	77.0%	100%	B	↗
工業団地内への立地企業数	144件	145件	145件	150件	C	→
地元企業の産学官連携事業数	2件	8件	12件	12件	A	↗

指 標 名	現状値 17年度	18年度 実績値	19年度 実績値	目標値 22年度	目標 達成度	比較
企業誘致件数	12企業	12企業	15企業	17企業	B	↗
米子・皆生温泉周辺の観光客入込み客数	127.7万人	138.3万人	137.0万人	150万人	B	↘
皆生温泉宿泊者数(入湯税対象客数)	47.8万人	44.7万人	44.7万人	50万人	D	→
米子市の地籍調査進捗率	33%	33.2%	33.8%	37%	C	↗
幹線市道の整備延長 ( 実延長 L= 141,922m 改良済 L=125,105m )	125,105m	125,563m	125,714m	126,968m	C	↗
米子空港搭乗者数	47.8万人	49.9万人	50.0万人	55.3万人	B	↗
米子市を通るバス路線数	30路線	27路線	27路線	30路線	C	→
米子市のケーブルテレビ網カバー率	93.9%	100%	100%	100%	A	→
コンベンション開催件数	23件	21件	13件	30件	D	↘
コンベンション参加延べ宿泊客数	8,285人	12,447人	4,226人	10,000人	D	↘
国際交流に参加したことのある市民の割合	9.10%	-	9.00%	10%	D	↘

#### ( 4 ) 第 4 章 みんなのための市役所

この分野は、調査対象の数値目標数が4項目と少数であるが、「市税の収納率(現年分)」は目標を達成しており、「地方債未償還残高」、「人口1万人当たりの職員数」とも概ね順調であり、着実に取組んでいる成果が挙がっている。

ただし、「経常収支比率」は基準値を下回り、「地方債未償還残高」は昨年度と比較して下落しているため、引き続き財政健全化に向けて行財政改革の推進が必要である。

平成19年度 数値目標進捗状況結果一覧

第 4 章 みんなのための市役所						
指 標 名	現状値 17年度	18年度 実績値	19年度 実績値	目標値 22年度	目標 達成度	比較
地方債未償還残高 ( 臨時財政対策債等特別債を除く )	600億円	583億円	587億円	560億円 以下	B	↘
経常収支比率	87.4%	93.70%	92.80%	85.0% 以下	D	↘
市税の収納率 ( 現年分 )	97.7%	97.9%	98.0%	98%以上	A	↗
人口1万人あたりの職員数	69人	68.5人	66.9人	65人	B	↗

## 6 数値目標別進捗状況

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
「病気予防、健康維持のための日頃の取り組み」をしている市民の割合 【健康対策課】	65.3%	-	70.2%	70.0%	A	↗
<p>【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康フェスティバルを開催し、健康保持増進の啓発を行った。 平成19年10月実施、延べ参加者数約1,400人。</li> <li>地区保健推進委員会、食生活改善推進委員会との協働による市民の健康の保持増進を図った。</li> <li>各種健康教室等を開催し、生活習慣病予防の啓発を行った。  <ul style="list-style-type: none"> <li>血糖値が高い人のための教室</li> <li>いきいき健康ライフ教室</li> <li>生活習慣病予防教室</li> <li>男性元気アップ教室</li> <li>わくわくスタイルアップ教室</li> <li>地区健康講座</li> <li>生活習慣病予防食実習</li> <li>各地区公民館祭健康相談への保健師、栄養士の派遣</li> </ul> </li> </ul> <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>健康フェスティバル、地区保健推進委員会・食生活改善推進委員会等地区組織との協働、各種健康教室の実施など健康づくり意識の普及、啓発に引き続き取り組む。</p>						

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
1歳6か月児健康診査受診率 【健康対策課】	94.9%	97.3%	96.8%	97%	B	↘
<p>【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>取組み</p> <p>ごみ分別収集カレンダー &amp; 健康ガイドに受診日、受診対象幼児の表示を行うとともに、1歳6か月児健康診査対象の全幼児に個別受診案内を送付し受診勧奨を行った。 健診未受診幼児の保護者に対し、個別通知により次月の受診勧奨を実施した。 次月においても未受診の場合には、保護者に対してアンケートの送付を行い、未受診の理由、幼児の現状把握等の記入を求め、状況把握を行った。</p> <p>成果</p> <p>個別通知による受診勧奨結果、未受診児の受診となった。 未受診児の保護者からのアンケート回答により、医療機関での経過観察中等未受診児の状</p>						

況が把握可能となり、それに応じた対応が可能となった。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

上記の取り組みにあわせて、未受診児の保護者に対し、必要に応じて電話連絡、家庭訪問を実施し、幼児、保護者の状況把握を行い、受診勧奨を行う。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
基本健康診査受診率 【健康対策課】	43.1	44.8	43.3	55.0	B	↘

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

取組み：合併後、旧市域と旧町域個別に健診を実施していたが、平成19年度より実施方法を統一するとともに、受診者負担を見直し、従前負担なしであった非課税世帯、70歳以上の者から委託単価の1割を徴した。市報、ホームページ等で受診勧奨をすると共に、地区健康教室等の際に直接住民に受診勧奨を行った。また、健診実施医療機関にポスター掲示を行い啓発を図った。

成果：従前負担なしの対象者に新たに負担を求めることにより受診率低下が想定されたが、上記受診勧奨の取組みなどにより、受診率の低下は対前年度比1.5ポイントの低下にとどまった。

目標値は米子市国民健康保険特定健診実施計画において22年度55.0%に変更した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

- ・ 特定健診の目的、受診方法等を市報、ホームページ等でPRする。
- ・ 実施医療機関にポスターを掲示する。
- ・ 特定健診対象者に受診券を送付する。
- ・ 地区保健推進員の活動の中で受診勧奨する。
- ・ 受診勧奨のための訪問を検討する。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
結核予防接種（BCG）累積 接種率 【健康対策課】	97.2%	98.1%	97.5%	98.0%	B	↘
<p>【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>取組み 毎月の市報及びごみ分別収集カレンダー＆健康ガイドに、集団接種日、接種対象幼児の表示を行うとともに、19年度から、未接種児の保護者に対して個別通知を実施し接種勧奨を行った。</p> <p>成果 接種率において90%台後半を維持することにより、米子市内において乳幼児の結核発症が皆無となっている。</p>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>上記取組みを今後においても継続し、目標の実現を図る。</p>						

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
通所型介護予防事業利用者数 【長寿社会課】	228人	68人	78人	510人	D	↘
<p>【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>特定高齢者等の運動機能向上を図るため、新たなサービスとして「がいなみっく予防トレーニング」を民間のフィットネスクラブ等へ委託し、開始した。 3ヶ月のトレーニングにより利用者の運動機能向上が確認できた。</p>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>平成18年度の介護保険制度改正にあたり、この事業の対象者が特定高齢者となったが、基本健康診査の際に実施する生活機能評価に基づく特定高齢者の判定に係る国の基準が厳しいことと、健診の受診率が低いことから特定高齢者の把握が進んでいないことが、利用者の増加につながっていない要因となっている。20年からは、健診における保健指導の義務化など健診率の向上が図れるほか、医療機関の窓口「がいなみっく予防トレーニング」のチラシを置いていただくなど関係機関との連携を強化するとともに、地域包括支援センター職員が直接特定高齢者の人を訪問し、介護予防の重要性を説明するなど、利用者の増加を図る。</p>						

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
介護保険利用者における居宅サービス利用率 【長寿社会課】	77.2%	77.4%	78.2%	77.6%	A	↗
<p>【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>要介護度が重度化することを防ぎ、できる限り住み慣れた自宅や地域で生活が継続できるよう、がいなみっく予防トレーニングやよなGo!Go!体操の普及などにより身体機能の低下の防止を図るとともに意識啓発を図るため、認知症予防教室などを開催し介護予防を推進した。</p>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>目標は達成されたが、引き続きよなGO!GO!体操を始めとする地域での介護予防事業や、サービス整備・周知に努め、居宅サービス利用率の向上を目指す。</p>						

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
65歳以上の高齢者のうち、介護保険要介護者にあたらぬ人の割合【長寿社会課】	81.0%	80.6%	81.3%	80.6%	A	↗
<p>【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>地域包括支援センターを設置し、高齢者への総合相談や要支援者等への支援等の充実を図るほか、地域住民の意識啓発と「よなGO!GO!体操」の地域での普及を図るため、介護予防サポーターを養成に取り組んだ。</p> <p>また、「生きがいづくり運動」として各種趣味の教室を開催し、高齢者が生きがいを持って生活することへの支援を浸透させることで、要介護者の増加の抑制を図った。</p>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>本市においては、平成18年に地域福祉計画を策定し、その中で、地域で暮らす全ての人が健康でいきいきした生活ができるよう健康づくり活動や生きがいづくり活動の充実を掲げている。</p> <p>この計画を推進するために、20年度以降も地域包括支援センターと連携し健康づくりサポーターの養成に努め、地域での健康づくり・生きがいづくり活動の一翼を担ってもらうほか、要介護・要支援者になる恐れのある人を対象に、民間フィットネスクラブ等で適度な運動をしていただくための「がいなみっく予防トレーニング」事業を継続実施し、運</p>						

動等を通じて元気な高齢者の増加を図り、もって自立して生活できる環境整備を図っていく。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
認知症予防教室参加者数 【長寿社会課】		480人	450人	900人	B	↘

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

市内5校区で、予防教室対象者の選定をタッチパネル式認知症スクリーニング機器により行い、境界層の人に対して3ヶ月の予防プログラムを実践していただき、再検査の結果、ほとんどの人で改善が見られた。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

- ・検診受診者の増加を図るため、認知症への正しい理解を図るための講演会及び学童への絵本教室の開催など、地域住民への広報活動を充実させる。
- ・現在市内5校区で開催している教室を11中学校区で実施できるよう、鳥取大学医学部の協力をいただき、境界層の人の選定を校区の医師が行うことができるよう人材育成のための研修等に取り組む。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
認知症高齢者出現率 【長寿社会課】	15.0%	14.0%	13.6%	15.0%	A	↗

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

地域においては、各地区公民館で認知症をテーマにしたものも含め、介護予防の講演会開催に取り組んでいただいた。

地域包括支援センターによる介護予防教室の中で講演等を行い、認知症に関する正しい知識の普及と意識啓発を行うとともに、認知症に陥る可能性の高い方を対象に、鳥取大学医学部と連携し「認知症予防教室」を実施した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

認知症予防に関する知識・意識の啓発のため、引き続き、「認知症予防教室」を実施するほか、鳥取大学医学部との連携による新たな事業の研究も行う。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
「子育て環境整備」に関する 市民の「不満足」「やや不満足」 の割合 【児童家庭課】	不満足 12.7% やや不満足 22.6%		不満足 11.5%や やや不満足 18.5%	不満足 6.4%以下や やや不満足 11.3%以下	C	↗
【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】 平成17年3月に策定した米子市次世代育成支援行動計画に基づき、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを行っている。						
【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 米子市次世代育成支援行動計画に基づき、家庭を中心として、行政、地域、事業主、関係機関、諸団体等がそれぞれの役割を担いながら、緊密な連携を図り推進する。						

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
保育所入所待機児童数 【児童家庭課】	31人	36人	44人	0人	D	↘
【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】 19年度は年度当初から私立保育園1園で入所定員を低年齢児を中心に20名増やしました。しかしながら、今年度も低年齢児を中心にそれを上回る入所希望があり、結果として昨年度より待機児童数が増加した。						
【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 ここ数年、入所定数を年々増加させてきているが、それにあわせるかのように入所希望も増加している。既存施設の有効利用を図るとともに、幼稚園への入園状況なども勘案しながら待機児童解消の方策を検討していきたい。 なお、20年度当初において、私立1園で30名の定員増をしている。						

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
なかよし学級実施学級数 【児童家庭課】	19箇所	20箇所	21箇所	23箇所	B	↗
<p>【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>平成19年4月より、21箇所目として、崎津小学校敷地内専用施設で崎津なかよし学級の運営を開始した。</p> <p>また、22箇所目として、和田小学校内になかよし学級開設を計画し、条例を制定した。この結果、平成20年4月より運営を開始した。</p>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>平成20年度は、保護者ニーズ等をふまえ、残る1校である大篠津小学校に、平成21年度よりなかよし学級を開設する検討を行う。</p>						

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
障がい者が暮らしやすく、社会参加ができる環境が整っていると感じる市民の割合 【障がい者支援課】	19.0%	-	17.8%	25.0%	D	↘
<p>【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>相談支援事業、コミュニケーション支援事業、就労支援事業など障がい者が地域で安心して生活していただくための施策の充実を図るとともに、障がい者に対する理解を深めてもらうよう『米子市福祉の集い』及び『各種障がい者関係大会等への助成』を実施し、市民の啓発に努めた。</p>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>障がい者が積極的に社会参加するためには、市民の障がい者に対する理解が不可欠であり、今後も市民に対する広報・啓発を進めていく。</p>						

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
福祉ボランティア団体に登録している市民の割合 【協働推進課】	2.6%	2.8%	2.7%	5.0%	C	↘

**【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】**

市民からのボランティアの問い合わせにボランティアセンターを紹介し、センターでは助言や情報提供など210件の相談を受けた。

ボランティアセンターへの委託によるボランティア入門講座及びリーダー養成講座を開講し、月刊情報誌の発行及びボランティア情報掲示板等による広報を実施した。

従前の福祉ボランティア活動の支援だけでなく、様々な分野でのボランティア活動に対応できる相談窓口を充実させるため、米子市福祉保健総合センター条例の一部を改正し、米子市福祉ボランティアセンターを米子市ボランティアセンターに改名した。(所管も障がい者支援課から協働推進課へ移行した)

**【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】**

地域福祉計画・地域福祉活動計画により、地区公民館単位で地域住民による福祉活動の推進を目指すとともに、福祉、保健、医療、観光、スポーツ、防災、文化、環境、教育その他を含む総合的なボランティア活動を行う人にボランティア登録の働きかけを行う。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
国民健康保険料の徴収率(現 年分) 【保険年金課】	88.41%	89.31%	89.36%	92.00%	B	↗

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

1. 取組み状況

(1) 現年度新規滞納対策

ア 新規滞納発生後の迅速対応

常習化防止のため、収納担当職員と徴収員が連携し、電話催告、訪問徴収などの迅速対応に努めた。

イ 口座振替の勧奨

新規加入者に対し窓口で口座振替依頼書を手渡して勧奨するとともに、全ての国保加入世帯宛てに保険証更新に併せて口座振替勧奨のための案内文を送っている。また、広報誌「よなごの国保」4月号に、口座振替の記事掲載することにより広報した。

ウ 本市の各種広報媒体による国保の納期や納付相談についての広報

毎月発行する「広報よなご」及び「米子市ホームページ」に国保料の納期月を表示して注意喚起すると共に、広報誌「よなごの国保」の7月号に、納期月及び納付相談等について記事掲載することにより広報した。

エ 管理職による滞納整理

主として現年度分滞納者で督促や各種催告に反応がないものに対し、収納担当職員に管理職が同行して平日夜間に戸別訪問し、徴収と納付勧奨を行った。

オ 夜間一斉電話催告

現年度分滞納者に対し、11月と5月の2回計6日間にわたり、平日夜間に一斉電話催告を実施した。

(2) 繰越滞納者対策

ア 厳正な滞納処分の執行(差押予告及び差押)

高額及び長期の滞納者については、納付資力判断のため、預貯金等の財産につき速やかに詳細な調査を実施し、差押予告通知の上で納付交渉を行い、納付意思が認められない者については、厳正に差押えを執行した。(国保資格全部喪失世帯等に対するもの、預貯金及び国税還付金等債権 計14件、2,008千円)

イ 短期被保険者証及び被保険者資格証明書等を活用した交渉機会の確保

滞納者との交渉機会を確保するため 短期証及び資格証の交付並びに3月末更新時の呼出しを行い、納付指導を行った。

ウ 分納の履行管理

分納誓約者については、徴収員と連携・協力しながら履行管理を徹底し、分納が滞るもの、金額が著しく低額のもの及び連絡先不明となったもの等につき、電話や訪問により履行催促と状況把握に努めた。

(3) その他の納付対策

ア 資格適用の適正化(早期適正賦課)

被用者保険から国保への資格異動が円滑に行われないことによる、国保資格の遡及適用により、遡及分保険料がまとめて賦課されることが、滞納の増加要因の一つとなっているため、離職に伴う国保への速やかな加入届出のPRに努めた。

イ 被用者保険適用の適正化(賦課の縮減)

年金異動リスト等各種資料を元に、被用者保険に加入しながら国保資格喪失手続きをしていないと思われる者を抽出して呼出し状を送り、状況聴取のうえ手続き指

導する等、適用の適正化により調定額の縮減を図るとともに、併せて納付指導も実施した。(5月と10月の2回実施。)

## 2. 成果

現年徴収率については、昨年度と比較してほぼ横這いとなった。(0.05%増)

### 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

#### 1. 方策

本年4月から後期高齢者医療制度が施行され、また10月から前期高齢者を対象とした国保料の特別徴収(年金天引き)が開始される予定であり、制度改正に伴う被保険者の新規加入等、対象世帯にも変化が起きている。本年については、特に制度改正の円滑な実施を図るとともに、国民健康保険全体の被保険者数及び普通徴収に係る調定額の動きを注視しながら、滞納整理にあたる必要がある。

##### (1) 新規滞納者対策

平成19年度方策を継続するが、可能な限り更に着手時期を早めることとする。

新規滞納者の中で滞納履歴があるものについては、着手時期を早め、滞納カード出力後速やかに保有資料から電話番号等を把握して一斉電話催告を行う等、早期の接触に努める。一斉電話催告については、今年度回数を増やし、年度末まで毎月行うこととする(毎月少なくとも2回、休日と夜間の各1回ずつを目標に取り組む)。電話番号が不明及び電話が不通のものは、徴収員に引継ぎ、戸別訪問等に切り替える。

##### (2) 繰越滞納者対策

平成19年度方策を継続実施し、更に充実させる。

例年納付時期が遅れる繰越滞納者については、7月の保険料納入通知直後から、徴収員と連携・協力して早期に接触し、訪問徴収等を主体として年度内完納に努める。

また、長期・高額滞納者については、世帯状況と納付資力の調査・把握に継続して取り組み、滞納世帯の実態に即した保険料収納額の確保に努める一方、状況に応じて、厳正な滞納処分の執行もしくは処分の執行停止の見極めに努める必要がある。

##### スケジュール

##### (1) 新規滞納者対策

早期接触(9月~12月)、休日・夜間一斉電話催告(9月~5月の毎月)

##### (2) 繰越滞納者対策

例年繰越者：訪問徴収等、休日・夜間一斉電話催告(7月~5月の毎月)

長期・高額滞納者：短期証・資格証を活用した交渉機会の確保、納付資力等調査(6月~10月)、預貯金等債権差押え(11月~3月)

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
介護保険要介護者認定率 【長寿社会課】	19.0%	19.2%	18.7%	19.4%	A	↗

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

高齢者が住み慣れた地域で安心した生活を続けられるように支援を行う総合機関として市内8ヶ所に地域包括支援センターを設置し、介護予防ケアマネジメントや包括的・継続的ケアマネジメント、総合相談支援等の実施により、高齢者が要介護となることを予防し、適切なサービスを利用できるように取り組んだ。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

地域包括支援センターと地域組織等との連携を強化し、地域ネットワークの基盤整備を推進することで、住民ニーズの的確な把握や見守り支援などの充実を図り、高齢者が地域で自立した生活が送れるような環境の整備に努めることで、老化の防止等の抑制を図る。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
人権教育地域懇談会の参加者数 【人権政策課】	2741人	2624人	2317人	3000人	D	↘

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

市内27地区の人権・同和教育推進協議会に懇談会開催を委託し、市内85箇所で開催した。

米子市人権施策・人権教育基本方針に定める人権分野について、住民相互の話し合いの中から気づきが生まれるよう懇談会をすすめた。

アンケートによると参加した住民のほとんどが「このような懇談会は必要である。」との回答を得ている。身近な地域での学びあいの場として有意義な懇談会であった

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

懇談会実施の際、事前準備を地域と共に周到に行い、地域の実態に合ったテーマ選定や、事前広報などを行う。

また、市報等で人権教育地域懇談会の内容や意義などについて広く知らせる。

指 標 名 【担当課】	基準値 ( H 17 )	H 18 年 度 実績値	H 19 年 度 実績値	目標値 ( H 22 )	目標 達成度	比較
男女が平等に生活している社会づくりがすすんできていると思う割合 【男女共同参画推進課】	49.5%	--	50.6%	60%	B	↗

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

1 男女共同参画啓発事業の実施

( 1 ) 男女共同参画週間イベント(H.19.6.23～29)

( 男女共同参画パネル展示、映画上映会、女性のパワーアップ研修会 )

( 2 ) 市報等での広報

( 3 ) しゃべって未来や(3回)(講演と意見交換会)

( 4 ) かぶりあ祭の開催(H20.3.8～9)

( 男女共同参画推進イベントの開催、利用登録団体の活動報告・発表展示 市民参加による意見交換会、交流会 )

2 男女共同参画推進計画の進行管理

( 1 ) 施策の実施状況、目標値の設定調査

3 男女共同参画推進計画の見直し

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

1 男女共同参画啓発事業の充実

2 米子市男女共同参画センターを利用したの情報提供、事業の実施

3 平成20年度市民意識調査の実施

4 各担当課との連携強化

指 標 名 【担当課】	基準値 ( H 17 )	H 18 年 度 実績値	H 19 年 度 実績値	目標値 ( H 22 )	目標 達成度	比較
審議会等委員に占める女性の割合 【男女共同参画推進課・職員課】	31.4%	31.8%	29.6%	40.0%	D	↘

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

・6月1日現在の組織・委員データを各審議会等所管課から収集し、周知啓発

・チェックシートを使った職場評価の実施

・米子市女性人材バンク登録について市民への啓発

登録者数 12名 (うち審議会等委員へ4名推薦)

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

- ・米子市審議会等委員選任基準等の遵守の徹底
- ・米子市女性人材バンク事業の充実  
人材発掘と登録に向けた市民啓発  
登録者活用に向けた各課との連携

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
児童1人当たりの年間図書貸し出し数 【学校教育課】	40	51.1	57.5	48	A	↗

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

学校の図書購入費を確保するとともに、学校図書館教育研修事業により学校図書職員及び司書教諭を対象とした研修を引き続き実施することで、学校図書館の充実を図った。

学校教育活動の中で、子どもたちの読書意欲を高めるため、朝の読書の取組みやブックトークを実施したり、読み聞かせボランティアをお願いするなど図書を利用する取組の充実を図った。

その結果、平成19年度も前年度に続き、児童1人当たりの年間図書貸し出し数が大幅に増加した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

今後も引き続き、子どもたちの読書意欲を高めるため、学校教育活動の中で、朝の読書の取組みやブックトークを実施したり、読み聞かせボランティアをお願いするなど図書を利用する取組を充実させながら、目標を達成できるよう努力していきたい。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
校内LAN整備率 【教育総務課】	54.4%	100.0%	100.0%	100.0%	A	→

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

平成18年度中に、市内すべての小学校に校内LANを整備した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
学校給食における県内産食材 の使用割合 【学校給食課】	44.8%	51.5%	53.6%	50%	A	↗
<p>【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>味噌製造業者と交渉し、平成20年度から県内産大豆を100%使用した味噌を供給してもらえるようになった</p>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>献立作成の際にできるだけ旬の県内産食材を使用するようにして、季節感を出すことで県内産食材をもっと身近なものとして感じてもらうような工夫を行っていきたい。</p>						

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
生涯学習の機会の提供に満足 している市民の割合 【生涯学習課】	18.2%		17.6%	20.0%	C	↘
<p>【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>1 米子人生大学（15回開催） 登録者数 539人、延べ参加人数 4,978人、出席率 70.4% 登録者数は前年比13.8%減、平均参加者数は14.3%減となっている。</p> <p>2 よなごアカデミー（4テーマ、延べ13回開催） 登録者数 221人、延べ参加人数 594人、出席率 80.2%</p> <p>3 タムタムスクール（2コース、延べ12回開催） 登録者数 143人、延べ参加人数 373人、延べ託児数 300人 出席率 61.1% 受講希望は多いが、託児数に制限があり定員制をとっている。</p> <p>4 公民館社会教育講座（各館平均15回、延べ422回開催） 開催回数が前年比16.3%減となっている。 1館当たり60～80人の受講生があり、多様な学習に取り組んでいる。</p>						

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

関係機関等との連携など工夫をこらし、講座内容の充実を図ることにより、生涯学習の機会の提供に係る満足度を高める。

なお、平成19年度から「米子人生大学」「よなごアカデミー」については、受益者負担を導入しており、登録者数の減、ひいては「満足している」との回答を阻害する要因となっていることも考えられるが、その影響については、次の「アンケート調査結果」により判断したい。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
中高生が子ども会のボランティア活動に参加している人数 【生涯学習課】	200	267	317	350	B	↗

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

米子市ジュニアリーダーズクラブ(中高生のボランティアグループ)に対して、次に掲げる活動支援を行った。

ボランティア派遣の支援

生涯学習課が各子ども会からの連絡窓口となり、ジュニアリーダーの派遣依頼を受けやすいようにした。

ジュニアリーダーへの研修

ジュニアリーダーが資質を向上し、活躍の場を広げられるよう研修を実施した。また、他団体が実施する研修の情報提供をして参加を呼びかけた。

人材の発掘

米子市子ども会リーダー育成研修(小学5、6年生を子ども会のリーダーに育成する目的で実施する研修プログラム)の実施に参画し、研修修了者が中学生になったとき、ジュニアリーダーズクラブに参加するように呼びかけた。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

H20～22

潜在的な人材(ボランティア活動に関心をもつ中高生)を掘り出し、活躍できる場を紹介するコーディネーターとしての支援体制を整える。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
米子市に住所を有する少年の 万引き、自転車盗、置き引きな どの初発型非行者数 【生涯学習課】	179	145	114	120	A	↗
<p>【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少年育成センターで非行防止を呼びかけるチラシを小中高入学生及び中学卒業生の全員に配布した。</li> <li>・少年指導委員を委嘱し、中学校区ごとに活動費補助金を交付した。地域の大人全体で青少年を見守り育てる雰囲気醸成に効果があった。</li> <li>・教員と合同で補導を実施し駅前及び大型店舗を巡回し、児童・生徒に声をかけた。</li> <li>・青少年が立ち寄る店舗や、青少年が立ち寄るには好ましくない施設の状況調査を実施し、補導の参考にした。</li> </ul> <p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>青少年の非行防止 補導活動に重点を置き、飲酒・喫煙や深夜はいかい等の不良行為を見かけたら非行に走る前の段階で、とどまらせるように努める。</p> <p>青少年に有害な地域環境の浄化 不良行為の温床となるたまり場になりやすい施設等を把握するため、少年指導委員の協力を得て調査し、県や警察と連携して施設等の改善に向けて働きかける。</p>						

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
芸術文化鑑賞機会の提供に満 足している市民の割合 【文化課】	16.8 %		16.3 %	20.0 %	D	↘
<p>【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>美術館事業：継続事業として、市展、県展、常設展、郷土作家展を、普及事業として、美術館に親しんでもらうためのミュージアムスクールを全6回開催した。また、ねむの木のこどもたちとまり子美術展を新聞社との共催により開催し、広報に努め多数の観覧者があった。</p> <p>ホール事業：米子市音楽祭、童謡講座、ユースオーケストラ演奏会、なつかしの映画、子ども映画の上映会、弦楽の響きコンサート、鳥取県文化振興財団と共催による演劇公演を開催した。また、新たな試みとして公会堂、淀江文化センターでロビーコンサートの実施し、さらに米子高専連携事業として、講座の開催を実施した。</p> <p>交流事業：出雲ドーム 2000人の吹奏楽に小学校の金管バンドを派遣、津山市の音楽祭に文化団体の派遣、米子市音楽祭に出雲市、津山市の文化団体を招聘し交流した。</p>						

また、「私の好きな米子市・出雲市・津山市」をテーマに交流写真展を開催した。  
 学校公演事業：小学校、養護学校7校で、合唱・器楽・演劇公演を実施した。  
 秋の文化祭：美術館、文化ホール、公会堂、淀江文化センター等で62団体の参加を得て75事業を実施した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

引続き、美術館、文化ホール、公会堂、文化センターにおいて、継続事業、企画事業を実施する。企画事業実施にあたっては、今後ともアンケート、聴き取り調査などを実施し、市民に支持され、集客が図れる事業を実施する。また、新聞社等との共催で実施し広報の充実を図る。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
山陰歴史館・福市考古資料館・淀江歴史民俗資料館の年間入館者数 【文化課】	9,699人	13,155人	12,176人	30,000人	C	↘

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

3館の管理運営を一体化した指定管理制度の導入2年目。学芸員配置により展示活動や教育普及活動、外部機関や団体との連携活動の充実を図った。入館者数は前年度から減少しているが、館外での講座、体験学習等のソフト活動には1,200人の参加を得ており数値的には前年とほぼ同様である。また、素鳳コレクションを貸し出し特別協力事業として東京・広島で行なわれた難入形展には20,000人の観覧者があった。

なお、各館常設展のほか、以下の事業を実施した。

山陰歴史館（「特別展・戦国動乱期の伯耆」「特別展・素鳳展」「歴史館コンサート」）  
 福市考古資料館（「企画展・森の恵とくらし」「講演会・山陰の縄文世界」「体験学習」）  
 淀江歴史民俗資料館（「企画展・むかしの農村かつての漁村」「移動展・恐竜の世界」）

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

18年度と比べ来館者の伸び率が鈍っており、このままでは平成22年度の目標達成が困難な状況である。

館のホームページを立ち上げ、3館共通リーフレットの作成、歴史館情報の発信、歴史館コンサートなどPRの充実に取り組んできたが、目立った効果が表れていない。目標実現のため、より一層のPR活動を行なうとともに、3館固有の特徴を維持させつつ、長期的展望をもったシリーズ的企画や地域を柱とした企画に取り組むとともに、出前講座、移動教室などの館外活動に一層取り組む計画である。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
「伯耆古代の丘整備事業」の 進捗率 【文化課】	9.2%	21.2%	27.6%	64%	B	↗

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

(1) 環境整備

上淀廃寺跡の中心伽藍盛土造成、塔・金堂遺構のり設置、給排水等工事等を行なった。

(2) 買上

史跡上淀廃寺跡の追加指定地 3 筆 1604.33 m<sup>2</sup>の買上を行なった。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

環境整備 H19：中心伽藍整備、後背地排水対策  
H20：ガイダンス施設展示設計検討、中心伽藍整備（中門、回廊、園路等）、  
解説板（中心伽藍）  
H21：管理道整備、築地・回廊整備、ガイダンス施設展示設計・  
基礎工事 地形模型、解説板（後背地）  
H22：解説広場整備、ガイダンス施設工事  
H23：1/10 伽藍模型  
H24～25：向山古墳群整備 買上 18～H20  
その他 管理活用計画の検討

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
市民が週1回以上、スポーツ 活動を行っている割合 【体育課】	% 21.4		% 28.7	% 30.0	B	↗

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

主な施策

- ・ 市民体育祭、各種スポーツ教室・講習会、各種スポーツ大会を開催した。
  - ・ 第8回県民スポ・レク祭の主会場地として県とともに「トリピーフェスタ」を実施し、広報に努めるとともに市民の意識の高揚を図り、約1,500人の参加があった。
  - ・ 平成18年度に開催した「全国スポーツ・レクリエーション大会」を契機として、誰でも気軽に親しめる軽スポーツ、レクリエーションスポーツとして、平成19年度から「インディアカ」、「ドッチビー」の講習会、大会を開催し、普及振興に努めている。
- 市民の健康・体力づくり推進活動として、昭和41年度から毎月1回開催している「体力づくり歩け歩け大会」が、平成19年12月で500回に達したことを広報したこと

が、市民の関心を呼び、以降、例会参加者が増加傾向にある。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

平成18年度に開催された、全国スポ・レク祭による生涯スポーツの機運を一過性のイベントとして終わらせること無く、平成19年度よりスポ・レク祭開催記念インディアカ大会を開催し、平成20年度からは、「ふれあいの部」という初心者の部門を創設し、初心者がより参加しやすい環境を整える。あわせて、初心者向けの講習会を実施しており、更なる普及効果を狙う。

「ドッチビー」についても大会を継続し、さらなる意識の高揚と活動の推進をはかっている。

また、県民スポ・レク祭を初めとして、従来から行っている市主催の各種大会、教室、講習会等を通じて、市民のスポーツ活動への意識啓発を推進していく。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
「白浜住宅建替事業」の進捗率 【建築住宅課】	0%	0%	44%	100%	B	↗

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

建替(1期)工事 14戸完了  
既存建物解体撤去(2期)工事着手

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

既存建物解体撤去(2期)工事 平成20年6月完了  
建替(2期)工事 18戸 工期平成20年6月から平成21年2月の予定  
平成21年4月管理開始予定

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
「五千石住宅建替事業」の進捗率 【建築住宅課】	0%	0%	0%	28%	C	→
【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】						
【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 平成21年度 基本設計、実施設計、地質調査 (予定) 平成22年度 建替(1期)工事 38戸着手 (予定)						

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
市民1人当たり公園面積 【土木課】	10.39 m <sup>2</sup>	10.39 m <sup>2</sup>	10.39 m <sup>2</sup>	10.43 m <sup>2</sup>	C	→
【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】						
【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 区画整理事業等で基盤整備が終わり、戸建て住宅が増え人口増加している地区においては、公園の年次的な整備が必要である。 平成20年度以降は堀川北地区、観音寺地区、駅前西地区の街区公園の設計・計画決定資料の作成をし、費用対効果の分析を行い快適な住環境の整備を図る。						

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
準用河川の改修済み延長(準用河川区間延長 L=17.41Km) 【土木課】	8.03Km	8.08Km	8.13Km	8.28Km	B	↗
【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】 準用河川堀川の護岸整備を計画的に行なっており概ね目標を達成できる見込みである。						

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

平成20年度以降も計画的に準用河川堀川の整備を行い、快適な住環境の整備を図っていく。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
汚水処理人口普及率 【下水道整備課】	68.0%	73.9%	76.0%	85.1%	B	↗

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

公共下水道、農業集落排水施設事業とも計画的に整備が進む中で、伯仙処理区の面整備が完了したことにより、農業集落排水施設事業の面整備はすべて完了した。また合併処理浄化槽の設置における補助も予定どおり完了し、順調に普及率は向上している。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

現状の予算規模で計画的に整備促進していく。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
水洗化率 【下水道整備課】	82.8%	82.8%	85.4%	88.1%	A	↗

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

18年度に供用開始した農業集落排水施設の春日、巖処理区の水洗化率の向上により、単年度の水洗化率は2.6ポイントの伸びがあった。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

水洗便所への改造を推進するため、水洗化の啓発活動に積極的に取り組むと共に普及促進員等による戸別訪問の回数を増やしていく。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
米子市の景観を魅力的と感じる市民の割合 【都市計画課】	40.9%		44.8%	43.0%	A	↗

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

- 1 良好な景観の創出
  - ・景観法に基づく景観行政団体への移行
  - ・景観形成重点地区の整備  
旧加茂川・寺町周辺地区街なみ環境整備事業  
平成19年度事業費5,550千円
- 2 景観形成活動の推進
  - ・都市景観写真展の開催等 応募作品数110点
  - ・緑化活動支援事業 支援団体数15件

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

- ・平成20年度を目標に、うるおいのある、緑豊かで文化の薫る景観の創出を図るため、景観計画を策定する。
- ・景観形成重点地区である旧加茂川・寺町周辺地域における歴史的な街並みの整備を図る。
- ・都市景観写真展や緑化活動支援事業等を通じ景観形成活動の推進を図る。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
平成12年度を基準としたごみの削減率 【環境政策課】	5%	-4%	16%	8%	A	↗

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

平成19年4月から家庭ごみの有料化(可燃ごみ・不燃ごみ(不燃性粗大ごみを含む))を実施し、家庭ごみの減量化を図った。また、同時に事業所ごみの収集を廃止することで、事業所ごみの減量化を図った。

その結果、平成19年度の実績値は平成22年度の目標数値である8%を上回る16%となり、今のところ目標を達成している

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

平成22年度のごみの削減率は平成12年度を基準として16%と推計でき、目標の達成を見込んでいるが、次の取り組みにより、引き続きごみの減量化を推進することとする。

- ・自治会、リサイクル推進員等との連携

- ・要望に応じた地区説明会の開催
- ・ノーレジ袋推進協議会への参加（マイバッグ運動の推進）
- ・米子市ホームページ・広報よなごへの情報掲載
- ・よなごみ通信の発行
- ・家庭用生ごみ処理機等購入費補助事業の実施
- ・生ごみ堆肥化モデル事業の実施

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
ごみのリサイクル率 【環境政策課】	16.1%	16.6%	17.9%	21.0% 以上	B	↗

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

平成19年4月から家庭ごみの有料化（可燃ごみ・不燃ごみ（不燃性粗大ごみを含む））を実施することにより分別の徹底を図り、リサイクル率の向上を目指した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

米子市クリーンセンターにおいて発生する溶融スラグの再生利用を図るとともに、次の取組みを実施することにより平成22年度の目標の達成を目指す。

- ・資源ごみ回収運動推進団体に対する奨励金交付事業の実施
- ・自治会、リサイクル推進員等と連携し指導・啓発を徹底
- ・家電リサイクル法の対象家電及び家庭系使用済みパソコンなどのリサイクル促進のための情報提供

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
消防団員数 【防災安全課】	498 人	509 人	509 人	530 人	B	→

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

- ・本市消防団では初の取組として、成実分団において、管轄内に昼間勤務する職域団員3名（居住地は管轄区域外）を採用し、今後の団員確保、昼間の消防力確保に向け、大きな可能性をもたらした。
- ・消防団を題材にした「劇団ふるさときゃらばん」のミュージカル公演を本市に招致し、市民を対象とした消防団活動のPRを行った。
- ・発足2年目の女性分団において、19人の団員中7人が応急手当資格最高位の指導員資格を取得し、女性分団独自の心配蘇生法講習が実施できるようになり、自主防災組織や自治会等からの要請を受けて様々な活動を行えるようになった。これにより、市民にも女性分団、ひいては米子市消防団に対する認知度・評価はかなり高まったものといえる。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

- ・ 報道機関に消防団事業の情報提供を行う。
- ・ 団員募集ポスターの掲示、消防団PRチラシの配布を行う。
- ・ テレビ出演等による消防団活動のPRを行う。
- ・ 防火・消火活動だけでなく、地域における応急手当講習の開催等を通じて、住民から信頼される、魅力ある消防団を目指す。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
自主防災組織の結成率 【防災安全課】	27%	29%	31%	37%	B	↗

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

米子市連合自治会長会で、結成の呼びかけ、自治会総会、地区自治会長会議にて、結成の説明会を行い、また「広報よなご」にて、自主防災会結成の呼びかけを行った。

全自治会長に、結成促進用の冊子を配布した。

新規結成7件（新規結成7団体、継続認定（旧淀江町）8団体）があった。

育成事業の案内冊子を全自主防災組織に送付、また防災資機材購入事業26件、訓練等事業18件に補助を行いソフト、ハード面の充実を図った。

（財）自治総合センターのコミュニティ事業に推薦した2団体が補助金交付を受け、防災資機材を購入・装備した、また同センターの女性消防育成事業で購入した防災器具を1団体に貸与した。

1団体を知事表彰推薦し、表彰された。

活動説明会1件、訓練参加5件を行い活動の活性化に努めた。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

「広報よなご」に結成を呼びかける広報を掲載する。

自治連合会、自治会の総会等で結成に関する説明を行う。

既存組織の活動を活発化する事により、市民の自主防災組織への関心を高める。

指 標 名 【担当課】	基準値 ( H 17 )	H 18 年 度 実績値	H 19 年 度 実績値	目標値 ( H 22 )	目標 達成度	比較
公共建築物（昭和 56 年以前に 建築）の耐震調査の割合 【防災安全課】	70%	73%	74%	86%	B	↗
【19 年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】 河崎小学校の耐震調査を行った。						
【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 平成 20 年度は、湊山中学校、後藤ヶ丘中学校、箕蚊屋中学校、淀江中学校、河崎小学校、淀江小学校、就将小学校、宇田川保育園、淀江保育園の耐震調査を実施する予定としている。 平成 21 年度以降は、未実施の公共施設について計画的に耐震調査を行い、目標値の達成を目指す。  ( 参考 ) 全体数 66 件 基準値 46 件 実績値 49 件						

指 標 名 【担当課】	基準値 ( H 17 )	H 18 年 度 実績値	H 19 年 度 実績値	目標値 ( H 22 )	目標 達成度	比較
交通事故発生件数 【防災安全課】	1,043 件	1,013 件	917 件	985 件	A	↗
【19 年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】 平成 19 年度の本市の交通事情に応じた効果的な施策を取り入れた「米子市セーフティ作戦」を策定し、各関係機関や団体をはじめ幅広い市民の力を結集して協力を推進することにより、交通事故の減少、さらに安全で快適な交通社会を実現することを目的として運動を展開した。 具体的には、春、夏、秋、年末の各交通安全運動期間中、各関係機関や団体により、(1)子どもと高齢者の交通事故防止、(2)飲酒運転の根絶、(3)若者の交通事故防止、(4)後部座席を含むシートベルトとチャイルドシートの着用の徹底、(5)交差点での交通事故防止、(6)自転車の安全利用の推進、(7)“みんなが着けよう！反射材キャンペーン”の推進、(8)運転中における携帯電話の使用禁止の徹底、(9)交通安全にみんなで参加、実践する活動の推進 の重点項目を設け、ドライバーや歩行者等に対し、街頭広報や啓発物品の配布等啓発活動を行った。						

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

平成19年度は、交通事故件数の目標値を達成したが、これを継続的なものとするためには地道な交通安全啓発活動を展開していく必要があり、各期に実施する交通安全運動と連動し、広報・啓発活動を今後も継続していく。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
自治会に加入している割合 【協働推進課】	73.3%	71.8%	70.5%	74.1%	C	↘

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

本市では、各自治会が行う未加入世帯に対しての加入促進活動に対して、その連合組織である米子市自治連合会を通じて継続的な支援を行っており、これにより一定程度の成果を得ているものと考えている。

しかしながら他方では、都市化とともに、未加入世帯が多いとされる単身世帯、賃貸住宅居住世帯等が増加傾向にあり、このことから、近年において自治会の加入率は若干のマイナス基調となっている。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

前述のようなマイナス基調に歯止めをかけるため、今年度において、米子市自治連合会が、未加入世帯への加入促進の具体的な働きかけ等を取りまとめた自治会加入促進マニュアル（仮称）を策定することとなった。

本市においても、同会との連携・協力を図りながら、このマニュアルが実効性のあるものとなるよう先進他市事例等の情報提供、策定に係る技術協力等の具体的な支援を行っていくこととしている。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
生活排水対策重点地域「加茂川・旧加茂川流域」、「大沢川流域」における施設整備によるBOD汚濁負荷量 【環境政策課】	「加茂川・旧加茂川流域」 466.9kg /日 「大沢川流域」 560.0kg /日		461.3kg /日	439.6kg /日	B	↗
			523.1kg /日	532.1kg /日		

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

公共下水道が「加茂川・旧加茂川流域」の長砂町、陽田町や、「大沢川流域」の東福原、西福原地内で整備が進んだ。また、普及活動により、公共下水道への接続も増加した。実績において流域による差はあるが、BOD汚濁負荷量削減目標は、合計で達成率が、77%となっている、また「加茂川・旧加茂川流域」での水洗化人口は16,000人を越えている。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

公共下水道の整備、接続および水洗化の促進と生活排水対策講習会、ろ過袋斡旋など生活排水対策の実施

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
市行造林地内で間伐・枝打ち等の作業を実施する面積 【農林課】	32.53 ha	33.80 ha	46.67 ha	35.00 ha	A	↗

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

日南町花口の市行造林において、間伐30.10ha、枝打ち5.47ha、同町上萩山の市行造林において、間伐11.10haを実施した。

これは18年度実績に比較すると、間伐で18.27haの増、枝打ちで5.40haの減となっている。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

補助金の活用等を検討しながら、適正な造林事業に努め、目標値の年間35ha保育事業量の確保に努める。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
担い手の農地利用集積面積が地域の農用地に占める面積の割合 【農林課】	6.1%	7.7%	13.2%	16.7%	B	↗

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

認定農業者の育成、法人化への取組みを行い、認定農業者の数86経営体、集落営農22団体及び他産業からの参入企業2社へ増加。  
それにより担い手による農用地利用集積面積も237haから403haへ増加した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

今後も引き続き、集落説明会及び個別面談の実施、他産業からの企業参入の推進等による「担い手の数」を増やす取組、利用権設定等促進事業による農用地利用集積の取組及び担い手規模拡大促進事業、認定就農者農地賃借料助成事業等による認定農業者・法人等の担い手への農地の流動化・集約化への取組に努めるが、現在までの認定農業者の経営面積の実績及び新たな担い手の目標値等から、目標数値を見直した。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
遊休農地解消面積 【農林課】		2ha	8ha	23ha	C	↗

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

市内の農振農用地区域内における遊休農地解消計画（平成19年度～平成23年度）を策定し、その計画に基づき、遊休農地解消推進事業で約3.0ha（内特定法人貸付事業による解消1.1ha）、農地水環境保全対策で約3.0ha、合計で約6.0haを解消した。  
また、弓浜6地区の遊休農地対策協議会に対し会議費等を補助し、遊休農地解消に向けた検討を実施するとともに、西部地区遊休農地対策協議会、弓浜地区遊休農地対策検討会及び彦名干拓地遊休農地の意見交換会等において遊休農地解消に向けて検討を実施した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

平成20年度に弓浜地区の遊休農地において景観作物の作付けを行い、後に担い手への集積を図るほか、ヤギの放牧を行い遊休農地の解消及び解消へ向けた啓発活動を行う。  
また、農家の高齢化等に伴う新たな遊休農地の発生を防ぐため、引き続き利用権設定等促進事業により、認定農業者・法人等担い手への農用地利用集積に取組む。  
また、遊休農地解消推進事業（市内の遊休農地を整備した者に対し補助金を交付する事業及び弓浜6地区の各遊休農地対策協議会に対し会議費等を交付する事業）の実施により、遊休農地の有効活用の方策を米子市遊休農地対策協議会、西部地区遊休農地対策協議会等において検討するとともに、遊休農地の解消に向けた農業者の意欲を高める。  
また、遊休地解消の取組みと効果がわかるよう、新たに生じる遊休地の影響を除いた指標に変更すると共に農地利用集積の状況から目標値を見直した。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
担い手の数 【農林課】	38 経営体	46 経営体	86 経営体	101 経営体	B	↗
<p>【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>46経営体            86経営体</p> <p>米子市担い手育成総合支援協議会の構成機関・団体等が連携を密にし、同じ認識のもとで認定農業者制度のメリット等の周知、その他認定農業者の育成・確保に向けた取組を推進した結果、目標には届かなかったが、40経営体増加した。</p>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>米子市担い手育成総合支援協議会の構成機関・団体等で認定農業者候補のリストアップ（地域水田農業ビジョンの活用等）をし、その候補者リストに基づき、集落説明会及び個別面談により認定農業者へ誘導していく。</p> <p>その取り組みの結果、今年度、現在で86経営体となり、目標を達成する見込み。</p> <p>さらに、他産業からの企業参入を推進し、新たな担い手を育成する。</p>						

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
農産物を購入する際に地元産を優先する市民の割合 【農林課】	65.0%	-	74.6%	70.0%	A	↗
<p>【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>米子市地産地消推進計画を策定し、推進に向けた方向性を定め推進を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食における地元産農産物の利用促進</li> <li>・農林水産祭等の地産地消に関連するイベントの開催支援</li> <li>・市民農園を通じた消費者に対する農業への理解の促進</li> </ul>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>平成20年度まちづくりに関する市民アンケートの結果、平成22年度の目標値を達成しているが、引き続き、米子市地産地消推進計画に掲げる学校給食での地元農産物の利用促進、地産地消に関する情報の提供、農林水産祭等の地産地消に関連するイベントの開催支援、市民農園を通じた消費者に対する農業への理解の促進等に努めると共に、鳥取県や農協等が実施されている地元農産物の消費拡大、情報発信等の取組みに協力していく。</p>						

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
美保湾沿岸に設置した魚礁 の設置個所数 【水産振興室】	19ヶ所	19ヶ所	20ヶ所	21ヶ所	B	↗
<p>【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】 この魚礁設置事業は隔年で実施する計画で進めている。 19年度は実施年度であり、魚礁37基を設置した。</p>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 平成21年度に最終年度の事業を実施し、22年度には当初計画の21ヶ所になる予定である。</p>						

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
皆生漁港の北防波堤の延長 【水産振興室】	151m	181m	181m	211m	B	→
<p>【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】 平成18年度に製作した残りのケーソン30mを平成19年度に据置いたが、天候の影響により工事の一部を20年度に繰越した。</p>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】 20年度には上部工等、最終的な仕上げ及び調整をする予定である。</p>						

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
日野川における天然稚鮎の 遡上数 【水産振興室】	5.45 万尾	40 万尾	60 万尾	100 万尾	B	↗
<p>【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>日野川水系漁業協同組合が産卵場の造成及び魚道の整備等を実施した結果、天然稚鮎の遡上数が増加した。</p>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>日野川水系漁業協同組合は、引き続き産卵場の造成及び魚道の整備等を実施する予定であり、市として淡水魚育成放流事業を支援していきたい。</p>						

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
中心市街地商店街空き店舗へ の出店数 【商工課】	20店 舗	23店 舗	40 店舗	45店 舗	C	↗
<p>【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>商店街の空き店舗への新規出店を支援する「にぎわいのある商店街づくり事業」補助金について、広報よなご、ホームページ、鳥取県発行の冊子「商工施策の概要」などを活用し、周知に努めた。</p> <p>様々な事業内容の17店が商店街の空き店舗に新規出店を行った。</p> <p>そのうち、「にぎわいのある商店街づくり事業」補助金制度を利用して開店した店が3店あった。</p>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続き、補助金制度の周知に努める。</p> <p>商店街振興組合、米子商工会議所など関係団体と連携し、出店を希望する者に対して、補助金の周知や助言を行い、出店しやすい環境整備に努める。</p>						

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
米子流通業務団地への進出率 【崎津・流通団地営業課】	43.5%	61.8%	77.0%	100%	B	↗
<p>【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>平成19年度の進出実績は、分譲、事業用定期借地を含め、32,672.34㎡であり、総面積214,797.04㎡の15.2%であった。</p>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>平成20年度中に、</p> <p>施設立地に伴う固定資産税（操業開始日以降に賦課期日を迎えた3年度分）を免除する課税免除制度の創設</p> <p>進出企業の紹介者に対し、分譲の場合、契約価格の1%（上限1千万）、事業用定期借地の場合、借地料の1ヶ月分（上限1千万）を報奨金として支払う制度を検討中</p> <p>引き続き残面積(49,371.46㎡)への進出促進を図る。</p>						

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
工業団地内への立地企業数 【商工課】	144件	145件	145件	150件	C	→
<p>【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和田浜工業団地では、アルゼ(株)米子工場が閉鎖された。</li> <li>・米子港・旗ヶ崎工業団地では、(株)イワサカ（木材工場）が倒産し、閉鎖された。</li> <li>・米子港・旗ヶ崎工業団地では、山陰LPガス共同ターミナル(株)が新規に立地し、日清医療食品(株)が空工場に進出した。</li> </ul>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工場等の閉鎖、撤退等による立地企業数の減少を防止するため、企業訪問による情報交換、インフラ整備の拡充、企業の新たな設備投資に対する支援策等を行うとともに、企業の要望等について、ワンストップサービスで対応する。</li> <li>・新たな企業立地を促進するため、県、商工団体、工業団地組合など関係機関との連携を強化し、企業誘致等による新規企業立地に努めるとともに、補助制度、融資制度、課税の優遇措置、法規制緩和等、企業の設備拡張に対する支援措置を活用し、誘致活動を強化する。</li> <li>・和田浜工業団地については、年次的に排水路等の改善を図る。</li> <li>・インフラ整備がある程度充実し、企業立地率の高い米子港・旗ヶ崎工業団地、夜見富益</li> </ul>						

工業団地については、空地情報や空工場情報を適宜把握し、その情報発信に努める。  
 ・ 崎津工業団地については、インフラ施設が整備されていないことや売却価格等が決まっていな  
 いことなどから企業の立地が実現していないため、今後の方向性や対応について、県と協議して  
 いく。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
地元企業の産学官連携事業数 【商工課】	2件	8件	12件	12件	A	↗

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

平成19年度新規産学官連携事業

(財)鳥取県産業振興機構西部支部が関わった産学官連携事業

鳥取県マイクロナノバブル応用研究会

- ・(株)A & M (米子市中小企業新分野等進出補助事業)
- ・(株)米子シンコー

特定保健指導の指導支援ツールの開発及び指導効果化のための研究

- ・(有)保健情報サービス
- ・(株)エッグ

人体内通信システムを利用した自動健康コンサルティングシステムの開発

- ・(株)eBase Solutions Laboratory

とっとりロボット技術研究会

- ・(有)エイブル精機
- ・(有)カンダ技工
- ・(協)菊水フォーミング
- ・(株)日本マイクロシステム

都市エリア産学官連携促進事業

平成18年度に続き、当該事業の普及、啓蒙を図るため、「バイオシンポジウム」、「成果普及講演会」を関係機関と共同で開催するとともに、本事業に参画する市内企業の研究費の一部を助成。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

産学官連携事業については、年々、増加しつつあるが、今後も鳥取県、鳥取県産業振興機構、鳥取県産業技術センター、鳥取大学、米子高専等と連携し、産・学・官の連携事業を増加させるよう側面的な支援を継続する。

- (1)引き続き、都市エリア産学官連携促進事業に参画する企業を支援するとともに、この事業に新たに参画する企業の拡大と市民への事業成果の普及啓蒙を図る。
- (2)鳥取県産業振興機構に派遣した職員との連携を図り、産学官連携事業数の拡大を図る。
- (3)鳥取大学産学・地域連携推進室西部連携会議に参加し、情報交換や意見交換を深める

ことにより、産学金官の連携を強化する。

(4)平成19年度に中小企業の新技術、新製品の開発を促進し、その販路開拓を支援する補助制度を新設し、産学官共同研究も補助対象としているが、産学官連携事案件数の拡大を図るためには、補助採択件数の増加等この補助制度の拡充を図る必要がある。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
企業誘致件数 【商工課】	12 企業	12 企業	15 企業	17 企業	B	↗

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

- ・米子市大阪事務所、鳥取県、金融機関等からの企業立地情報により、工場等の立地を検討している企業を訪問する等、企業誘致の働きかけを行った結果、製造業1社(株今川紙器米子工場)の企業誘致を実現した。
- ・流通業務団地については、運輸業2社(丸協運輸(株)、(株)ムロオ)が新たに業態を変えて進出した。
- ・「企業立地促進法」における企業立地に係る優遇・支援施策を受けるため、「鳥取県地域産業活性化協議会」に参画し、この制度の全市域適用を図った。
- ・「企業立地促進法」に基づき、市内工業団地における「工場立地法」の環境施設面積率及び緑地面積率の規制を緩和した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

企業訪問や関係機関との連携等、企業誘致活動を強化するとともに、企業誘致支援策の拡充を図り、目標値の達成を図る。

- ・企業立地に関する企業情報の収集に努め、企業訪問等の強化により企業誘致の実現を図る。
- ・県、商工団体、工業団地組合等との企業誘致に関する連携を強化し、企業誘致の実現を図る。
- ・企業誘致に有利な低利率融資、課税の優遇措置、法規制緩和等の支援を受けることができる「企業立地促進法」の適用を図る。
- ・補助制度、融資制度等、企業誘致に係る企業への支援制度を積極的にPRする。
- ・電機、電子デバイス、精密機械や半導体産業など、高付加価値産業が立地できる内陸型工業適地の調査の実施を検討する。
- ・市内工業団地等、市内の空地、空工場等の情報を収集し、その情報発信に努める。
- ・米子流通業務団地、崎津アミューズメント施設用地への県外企業の進出を図る。
- ・県外の商工団体、産業団体の産業視察を誘致し、本市の地場産業や工業団地、流通業務団地のPRを図る。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
米子・皆生温泉周辺の観光客 入込み客数 【観光課】	万人 127.7	万人 138.3	万人 137.0	万人 150.0	B	↘

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

1 県境を越えた広域観光連携の推進

山陰の観光振興を推進するため、鳥取県と島根県の行政、経済団体、観光協会及びNPO等が連携、協働して圏域全体の事業を実施した。平成17年から、「中海・宍道湖・大山圏域観光連携事業推進協議会」を圏域の行政、経済団体、観光協会、NPO法人及び民間企業などで設置して、4委員会で開催している。

- (1)圏域観光MAPの作成・配付、既存の情報の集約・統一化のための圏域観光ポータルサイトの運営
- (2)中海・宍道湖を活用した水上遊覧の実現(10月試験運航)
- (3)温泉地・美術館のネットワーク化による滞留型観光の実現
- (4)観光ルートの設定及び体験型観光メニューの発掘

2 エコツーリズムの推進

「大山中海地域」は、国立公園「大山・隠岐」やラムサール条約登録湿地「中海・宍道湖」をはじめ、全国有数の風光明媚な山・海・湖・温泉といった非日常空間と日常生活に不可欠な都市機能とがバランスよく凝縮された地域であるとともに、古代遺跡、出雲神話とこの地域独自の神社などに代表されるように、悠久の時間を経た歴史・文化遺産の宝庫である。これら第一級の地域資源の多くを観光素材として、当地域の持ち味を活かし、「新たな観光魅力づくり」と、環境保全と経済活動を両立させた「持続可能な観光地づくり」を実現するため、人と地域の連携を深め、当地域ならではのエコツーリズムを構築・推進していく。

4月9日『大山・中海・隠岐エコ協議会』を設立し、10月には大山及び皆生にツアーデスクを設置して、ツアーブックの作成やホームページによる情報発信をするとともに皆生シーカヤック、ビーチウォーク、大山ぶなウォークなどのツアープログラム案内を開始した。

中小企業庁「地域資源活用新事業展開支援事業」採択

3 皆生温泉の活性化

(1)皆生温泉にぎわい創出事業

観光宣伝事業の推進(東京、中京、京阪神、山陽方面)

緑と花いっぱい運動

古代雛・常設展示(素鳳館運営)

海水浴場ちびっ子広場の実施(夏季・夜店、花火等)

イベント実施(境港周遊鬼太郎バス、カニバスの運行)

健康保養温泉地づくり事業

JTB旅連ホットソルトスプリングウェルネス事業の支援

皆生温泉の特色を活かした商品化 「スリミングステイ 3%美くなる旅」

脂肪燃焼ソフト：入浴方法の確立、入浴効果の検証、入浴指導員の養成、サンドウオ

ークの設定

エステソフト：脂肪燃焼、保湿・保温効果のあるオイル開発

健康食ソフト：ビューティレシビ：単品、地産品、中カロリーの共通食の開発

#### 4 米子市観光協会の事業助成

観光協会が実施する事業への支援

(1) 宣伝対策事業

(2) 米子市観光キャンペーン事業

(3) 海水浴場開設、海浜清掃

(4) 桜まつり

(5) 全日本トライアスロン皆生大会 など

5 米子がいな祭の実施（2日間観客動員18万人）

6 米子市の観光戦略について、観光関連団体等の意見交換をする組織を設置し、将来像等について協議することとした。

7 全国和牛共進会でのPR

全国和牛共進会を開催し、崎津会場には全国から約228000人の来訪者があり、本市の魅力をアピールし、リピーターを増やすために、飲食店マップを発行するとともに、観光施設の割引優待券を発行した。

#### 成果

平成19年度公表された鳥取県観光客入込動態調査に基づく米子・皆生温泉周辺の観光客入込み客数（平成18年1月～12月実績）は、1,370千人と前年比0.01%の減少であった。平成19年の結果は平成20年夏頃に発表される。

\* 和牛博覧会の数値は入っていない。

#### 【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

観光圏整備事業を推進し、皆生温泉、米子駅前を広域観光圏の滞在促進地区として、滞在型観光を進める。

そのために、大山、皆生の自然を利用したエコツーリズムの推進、にぎわい創出事業を中心に皆生温泉の活性化を図るとともに、米子市観光協会の各種事業の助成を行い、エージェントへのプロモーション、着地型メニューの開発支援等を行う。

また、米子がいな祭等イベントを実施し、交流人口の増大を図る。

さらに、新たな構想である蒜山、美保関を繋ぐ「大山パークウェイ構想」の推進についても積極的に支援し、新たな観光客の誘致を図っていく。

指 標 名	基準値 (H17)	H18年 実績値	H19年 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
【担当課】						
皆生温泉宿泊者数(入湯税対象者数) 【観光課】	47.8 万人	44.7 万人	44.7 万人	50 万人	D	↘

#### 【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

1 皆生温泉にぎわい創出事業

観光宣伝事業の推進（東京、中京、京阪神、山陽方面）

緑と花いっぱい運動

古代雑・常設展示（素鳳館運営）  
海水浴場ちびっ子広場の実施（夏季・夜店、花火等）  
イベント実施（境港周遊鬼太郎バス、カニバスの運行）  
健康保養温泉地づくり事業

2 JTB旅連ホットソルトスプリングウェルネス事業の支援

脂肪燃焼ソフト：入浴方法の確立、入浴効果の検証、入浴指導員の養成、サンドウオークの設定

エステソフト：脂肪燃焼、保湿効果のある商品開発

健康食ソフト：単品、地産品、中カロリーの共通食の開発

3 エコツーリズムの推進

「大山・中海地域」の豊かな自然、歴史、文化などの地域資源を有効活用し、環境保全と経済活動を両立させた「新たな魅力ある観光地づくり」を実現するため、当地域ならではのエコツーリズムを構築・推進していく。

4月9日『大山・中海・隠岐エコ協議会』を設立し、10月には大山及び皆生にツアーデスクを設置して、ツアーブックの作成やホームページによる情報発信をするとともに皆生シーカヤック、ビーチウォーク、大山ぶなウォークなどのツアープログラム案内を開始した。

中小企業庁「地域資源活用新事業展開支援事業」採択

成果

平成19年度皆生温泉宿泊者数は、447,100人（対前年100.10%）で、非常に厳しい結果であったが、平成18年3月松風閣、5月ひさご家が閉鎖され、また、平成19年1月には、ホールサムイン皆生、私学共済皆泉荘の廃業が重なり、皆生温泉全体のキャパシティの減少があったことも要因である。

全国的にも温泉旅館が厳しい状況のなかで、多くの旅館が横ばい状態を保っていることは、健闘していると評価できる。

また、19年2月ウェルネスインほうき路（元ホールサムイン皆生）、3月末No1皆生温泉（元ひさご家）が開業するとともに、松風閣も地元旅館が購入し、東光園は星野リゾートに経営譲渡され、新たな活用が期待される。併せて、幸楽園跡も事業計画が模索されており、今後の成り行きが注目される。

風俗店の客引問題については、地元の防犯パトロールの継続的な実施と県及び市の条例制定等の検討も開始した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

引き続き、皆生温泉にぎわい創出事業の支援を重点的に行っていく。

また、スリミングステイ事業の効果検証と維持支援、商品のバリエーションの開発支援等を行って行くとともに、エコツーリズムの推進として、新しいエコツアーメニューの開発及び観光協会の「大人の社会見学」等着地型商品の開発等の支援を行っていく。

広域観光圏の推進を支援し、皆生温泉を観光圏の滞在促進地区として滞在型観光の推進を図っていく。

さらに、新たな構想である蒜山、美保関を繋ぐ「大山パークウェイ構想」の推進についても積極的に支援し、新たな観光客の誘致を図っていく。

指 標 名 【担当課】	基準値 ( H 17 )	H 18 年 度 実績値	H 19 年 度 実績値	目標値 ( H 22 )	目標 達成度	比較
米子市の地籍調査進捗率 【農林課】	33%	33.2%	33.8%	37%	C	↗
<p>【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>19年度は、富益の一部(0.08ha)、稲吉の一部(0.71ha)を計画どおり調査した。富益地区については、平成18年度に事業計画の見直しを行い、平成20年度から、3ヶ年は、調査を行わず、認証作業に専念し、平成23年度から調査を再開する予定。</p>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>平成20年度は、計画どおり富益・稲吉共に認証・登記作業をしていくため、進捗率は上がらない。富益地区については、事業計画の見直しに伴い、平成19年度までは、調査と認証作業、平成20年度～22年度までは認証作業、平成23年度から調査再開と認証作業を実施して平成30年度に完了する予定である。地籍調査は、一筆の土地を明確化することにより、適正な課税評価や、用地等を伴う公共事業の効率的な促進にも繋がる事業であり、必要性を再認識し、米子市全地域を早期完了させるための体制作りが必要と考える。</p>						

指 標 名 【担当課】	基準値 ( H 17 )	H 18 年 度 実績値	H 19 年 度 実績値	目標値 ( H 22 )	目標 達成度	比較
幹線市道の整備延長(実延長 L=141,922m 改良済 L=125,105m) 【土木課】	125,105 m	125,563 m	125,714 m	126,968 m	C	↗
<p>【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>平成19年度は皆生温泉環状線 L=151.0m の工事をし、計画的に幹線市道の整備を行った。</p>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>平成20年度以降も計画的に皆生温泉環状線、内浜中央線等市道の整備をし、安全で快適な市民生活の基盤となる幹線道路や生活道路の整備を図り、総合的な交通体系の整備に努める。</p>						

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
米子空港搭乗者数 【総合政策課】	万人 47.8	万人 49.9	万人 50.0	万人 55.3	B	↗
<p>【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>米子空港利用促進懇話会及び米子・ソウル国際定期便利用促進実行委員会等の関係機関と協力し、米子空港就航便の利用促進として、旅行商品造成支援、山陰観光情報発信、空港駐車場無料化等を実施した。</p> <p>特に、一時運休が危ぶまれたソウル便に対しは、団体旅行支援等の利用促進策を強化し、10月以降は例年以上の搭乗者数を確保することができた。</p> <p>19年度の利用者数は空港全体で500,007人と対前年比100.2%、1,116人の増。</p>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>地道な利用促進活動により利用者数を増やしていくと共に、現在整備中の滑走路2,500m化や羽田空港拡張事業の完成にあわせ、鳥取県や関係団体と協調し、航空会社に対し機材の大型化や増便、新規路線の就航について要望していく必要がある。</p>						

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
米子市を通るバス路線数 【総合政策課】	30	27	27	30	D	→
<p>【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>赤字路線に対する補助</li> <li>国・県に対して補助制度の維持・充実についての要望</li> <li>既存の路線の収支改善のため、運行時間の変更、停留所の新設、運行経路の変更、同一系統路線の統合等についてバス事業者と協議</li> </ul> <p>* 18年度中(H17.10～H18.9)の廃止・統合路線</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>米子駅 尾高 米子ハイツ 利用者減のため</li> <li>米子駅 卸売団地線 利用者減のため</li> <li>米子駅 上後藤 三柳団地線 上福原経由の同系統の路線に統合</li> </ul>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>必要な路線については、今後も補助を継続する</li> <li>引き続き国・県に対して補助制度の維持・充実について要望する</li> <li>利用実態に即した合理的な運行形態について事業者と継続的に協議を行う</li> </ul>						

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
米子市のケーブルテレビ網カ バー率 【情報政策課】	93.9%	100%	100%	100%	A	→

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

平成18年度に「淀江地区CATV施設整備事業」を実施し、新たに淀江地区をカバーする放送施設を設置した。これにより、米子市全域でCATVを視聴できる体制整備が整った。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
コンベンション開催件数 【観光課】	件 23	件 21	件 13	件 30	D	↘

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

1 コンベンション開催支援補助金

誘致促進のため、中国地方以上の広域から参集するコンベンションで、延べ宿泊者数が200人以上(学術会議については100人以上、ほか国際会議の場合は加算あり。)の場合は、開催支援補助金を支出した。

2 コンベンションビューロー運営費補助金

コンベンションの誘致活動、調査企画、広報宣伝及びビューローの運営に対して鳥取県と4市で1/2ずつ運営費補助金を支出し、支援した。

3 米子駅前簡易駐車場の運営、管理によるコンベンションセンター用の無料駐車場を確保し、利用促進を図った。

成果

平成19年度(財)とっとりコンベンションビューローが補助対象とするコンベンション開催件数は、13件で対前年比38.1%減少した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

H20年度

会議、大会等は、毎年定例の開催ではないため、年によって偏りが出るが、補助対象とならないコンベンションの誘致も多く、継続した誘致活動が重要であるので、引き続き、(財)とっとりコンベンションビューローへの支援を積極的に行なう。

来年度は、29件、15,220人の宿泊を見込んでいる。

- 1 コンベンション開催支援補助金
- 2 コンベンションビューロー運営費負担金
- 3 米子コンベンションセンターの運営、管理
- 4 米子駅前簡易駐車場の運営、管理によるコンベンションセンター用の駐車場確保
- 5 飲食店マップの作成などコンベンション誘致支援に向けた取り組み
- 6 観光関連団体等の意見交換をする観光戦略会議において、コンベンション誘致に向けた情報交換を行う。

H21年度

- 1 コンベンション開催支援補助金
- 2 コンベンションビューロー運営費負担金
- 3 米子コンベンションセンターの運営、管理
- 4 米子駅前簡易駐車場の運営、管理によるコンベンションセンター用の駐車場確保
- 5 飲食店マップの作成などコンベンション誘致支援に向けた取り組み
- 6 観光関連団体等の意見交換をする観光戦略会議において、コンベンション誘致に向けた情報交換を行う。

H22年度

- 1 コンベンション開催支援補助金
- 2 コンベンションビューロー運営費負担金
- 3 米子コンベンションセンターの運営、管理
- 4 米子駅前簡易駐車場の運営、管理によるコンベンションセンター用の駐車場確保
- 5 飲食店マップの作成などコンベンション誘致支援に向けた取り組み
- 6 観光関連団体等の意見交換をする観光戦略会議において、コンベンション誘致に向けた情報交換を行う。

指 標 名	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
【担当課】						
コンベンション参加延べ宿泊者数 【観光課】	人 8,285	人 12,447	人 4,226	人 10,000	D	↘

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

1 コンベンション開催支援補助金

誘致促進のため、中国地方以上の広域から参集するコンベンションで、延べ宿泊者数が200人以上（学術会議については100人以上、ほか国際会議の場合は加算あり。）の場合は、開催支援補助金を支出した。

2 コンベンションビューロー運営費補助金

コンベンションの誘致活動、調査企画、広報宣伝及びビューローの運営に対して鳥取県と4市で1/2ずつ運営費補助金を支出し、支援した。

3 米子駅前簡易駐車場の運営、管理によるコンベンションセンター用の無料駐車場を確保し、利用促進を図った。

成果

平成19年度（財）とっとりコンベンションビューローが補助対象とするコンベンション参加宿泊者数は、4,226人で対前年比66%減少した。

会議、大会等は、毎年定例の開催ではないため、年によって偏りが出るが、補助対象とされないコンベンションの誘致も多く、継続した誘致活動が重要である。

来年度は、29件、15,220人の宿泊を見込んでいる。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

H20年度

会議、大会等は、毎年定例の開催ではないため、年によって偏りが出るが、補助対象とされないコンベンションの誘致も多く、継続した誘致活動が重要であるので、引き続き、（財）とっとりコンベンションビューローへの支援を積極的に行なう。

来年度は、29件、15,220人の宿泊を見込んでいる。

1 コンベンション開催支援補助金

2 コンベンションビューロー運営費負担金

3 米子コンベンションセンターの運営、管理

4 米子駅前簡易駐車場の運営、管理によるコンベンションセンター用の駐車場確保

5 飲食店マップの作成などコンベンション誘致支援に向けた取り組み

6 観光関連団体等の意見交換をする観光戦略会議において、コンベンション誘致に向けた情報交換を行う。

H21年度

1 コンベンション開催支援補助金

2 コンベンションビューロー運営費負担金

3 米子コンベンションセンターの運営、管理

4 米子駅前簡易駐車場の運営、管理によるコンベンションセンター用の駐車場確保

5 飲食店マップの作成などコンベンション誘致支援に向けた取り組み

6 観光関連団体等の意見交換をする観光戦略会議において、コンベンション誘致に向けた情報交換を行う。

H22年度

1 コンベンション開催支援補助金

2 コンベンションビューロー運営費負担金

- 3 米子コンベンションセンターの運営、管理
- 4 米子駅前簡易駐車場の運営、管理によるコンベンションセンター用の駐車場確保
- 5 飲食店マップの作成などコンベンション誘致支援に向けた取り組み
- 6 観光関連団体等の意見交換をする観光戦略会議において、コンベンション誘致に向けた情報交換を行う。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
国際交流に参加したことのあ る市民の割合 【総合政策課】	9.1%	-	9.0%	10.0%	D	↘
<p>【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>平成20年度 まちづくりに関する市民アンケート結果 9.0% 行政と民間団体が各種交流事業等を実施した</p> <p>〔行政〕 ・国際理解講座 ・中国語・韓国語講座 ・ハングル・スピーチコンテスト ・カナダ・ウエストバンクーバー高校生ホームステイ交流事業 ほか (延参加人員：約1,300人)</p> <p>〔民間〕 ・江原道草束市青少年ホームステイ交流事業 ・夏の交流会 ・国際井戸端会議 ・バーベキューパーティー ・料理教室 ほか (延参加人員：約200人)</p>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>引き続き、市民ボランティア団体などの活動支援を積極的に行うとともに、上記各種交 流事業や講座などの充実と、市民に対するPRの強化に努めたい。</p> <p>また、平成20年度は中海市長会において、青少年海外派遣事業として中学生をカナダ に派遣することとしている。</p>						

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
地方債未償還残高(臨時財政 対策債等特別債を除く。) 【財政課】	600 億円	583 億円	587 億円	560 億円以下	B	↘

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

平成19年度当初予算及び補正予算の編成にあたって、市債の発行を元金償還額以下に抑制し、平成19年度決算においても地方債未償還残高の低減を達成する見通しであったが、「土地開発公社経営健全化対策」の財政支援措置として、地方債措置を行ったため、市債の発行額が元金償還額以上となった。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

引き続き、大規模投資的事業の原則凍結等により市債の発行を抑制し、地方債未償還残高の低減を図っていく。

指 標 名 【担当課】	基準値 (H17)	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 (H22)	目標 達成度	比較
経常収支比率 【財政課】	87.4	93.7	92.8	85.0	C	↗

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

1 経常一般財源(分母)に大きく影響を与えた要因

平成18年度歳入との比較において、プラス要因としては、市税において、所得税から個人市民税への税源委譲や定率減税の廃止などにより約12億円の増があったほか、減収補てん債が約3億円の伸びを示している。しかしながら、一方では、地方譲与税が約10億4千万円の減、地方特例交付金が約3億4千万円の減、普通交付税が約1億9千万円の減、特別交付税が約7千万円の減となっており、市税等が増加した部分については、ほぼ相殺された結果となった。

2 経常経費充当一般財源(分子)に大きく影響を与えた要因

平成18年度歳出との比較において、公債費の増加が見られたものの、退職手当をはじめとする人件費の大幅な減により、これらに充当する一般財源が減少した。

これらのことから、経常一般財源(分母)が横ばい傾向であるのに対し、経常経費充当一般財源(分子)が減少したことなどから、平成19年度決算における経常収支比率は、昨年度の93.7%から92.8%に良化した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

- ( 1 ) 地方税収入の増  
目標徴収率の設定（現年 9 8 %、滞納繰越 2 0 %）
- ( 2 ) 歳出の縮減  
事務事業の見直し、人件費の抑制
- ( 3 ) 公債費の抑制  
大規模投資的事業の原則凍結、プライマリーバランスの黒字化の強化
- ( 4 ) 施設の運営、維持管理経費の抑制  
老朽化した施設等の今後の在り方の検討

指 標 名 【担当課】	基準値 ( H 17 )	H 18 年 度 実績値	H 19 年 度 実績値	目標値 ( H 22 )	目標 達成度	比較
市税の収納率（現年分） 【収税課】	97.7%	97.9%	98.0%	98%以上	A	↗

【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

目標達成のために次の項目について、特に重点を置いて取り組んだ。

- ・ 新規滞納者の発生を未然に防ぐため、滞納の初期段階からの整理を強化
- ・ 悪質滞納者に対しては厳正な滞納処分を実施
- ・ 塩漬債権の解消を図るため不動産公売を実施
- ・ 高額滞納・徴収困難事案等の定期的な検討会の開催
- ・ 徴収職員のスキル向上を図るため各種実務研修会への積極的参加

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

目標としていた徴収率を平成 1 9 年度で達成することができたが、引き続き、これを維持するとともに、更なる向上を目指して滞納整理の強化を図ることとしている。

具体的には、長年懸案となっている塩漬債権（差押処分を執行したにも関わらず公売実施できないままとなっている債権）の解消に向けた具体的な検討に着手するほか、更なる滞納処分の強化（動産差押、インターネット公売等）を図ることとしている。

指 標 名 【担当課】	基準値 ( H17 )	H18年 度 実績値	H19年 度 実績値	目標値 ( H22 )	目標 達成度	比較
人口1万人あたりの職員数 【職員課】	69	68.5	66.9	65	B	↗
<p>【19年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】</p> <p>技能労務職員（給食調理業務）の職種転換の推進 定年前早期退職制度の時限的特例措置 組織機構の再編</p>						
<p>【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】</p> <p>次に掲げる手段により新規採用を抑制（退職者の一部不補充）し、職員数を削減する。 事務事業の縮小・廃止及び民間移管の推進 事務事業の効率化及び民間委託の推進 技能労務職員の職種転換の推進</p>						
H17.4.1 職員数 1,035 人	H18.4.1 職員数 1,026 人	H19.4.1 職員数 1,001 人	H22.4.1 目標職員数 978 人			